

2015年8月30日
松本東急 REI ホテル

[電機連合長野地方協議会第63回定期大会]

議長 小池 政和

電機連合長野地協第63回定期大会に、県下各地よりご参集をいただきました大会代議員の皆さん、傍聴者の皆さん大変ご苦労さまです。

前段では、来年7月予定の第24回参議院選挙に電機連合公認候補として出馬される「矢田わか子」予定者の必勝決起集会を開催させていただき、電機連合長野地協として必勝に向けた意思統一がはかれたものと思います。矢田候補については、この後のご予定もあり退席されましたので、この大会からご出席いただきました方々には「宜しく」とのことですでお伝えしておきます。

本日は、休日にも関わらずご多用の中、電機連合本部より半沢中執はじめ、多くのご来賓の皆さまにご臨席いただきました。後ほど、それぞれのご来賓の皆さまをご紹介します、ご挨拶をいただきたいと思いますが、日頃のご指導とご厚誼に対し、組織を代表して心から感謝と御礼を申し上げたいと思います。

本定期大会は、すぐる一年間の活動を振り返り、成果と反省・課題を踏まえ、新たな発展に向けた運動方針の議論をしていただくわけですが、私たちの生活や取り巻く特徴的な課題・諸事情について、また、運動方針の一部について触れ、ご挨拶にさせていただきたいと思います。

昨年の大会にてご報告しておりますが、昨年7月に発生した長野県南木曾町における土石流災害により、大きな被害を受けました南木曾町への義援金をお渡ししております。以降、9月27日には、御嶽山の噴火や11月22日には、長野県神城断層地震が発生し、白馬村を震源とし、小谷村や小川村にも被害が及んでいます。

御嶽山の噴火については、今なお、行方不明者5名の発見がされておりましたが、長野県としては捜索打ち切りが宣言され、行方不明者のご家族の心中をお察しすれば心が痛む思いです。改めて、亡くなられた方々には、衷心よりお悔みを申し上げますとともに、被災された方々には心からお見舞いを申し上げたいと思います。また、神城断層地震においては、白馬村を中心に大きな被害があり、南木曾町同様、加盟組合員から寄せられた多くの善意と組織カンパを合わせて、3月26日、それぞれ三村を訪問し、義援金をお渡ししてきました。

加盟組織の皆さんには、この間の取り組みに感謝と御礼を申し上げます。

地域貢献、社会貢献という観点で言えば、継続して取り組んでいる各地区協の社会貢献活動を含めて、長野地協として取り組んでいるタンザニアの孤児支援について、引き続き取り組んでいきたいと考えています。

飯綱町のサンクゼール、NPO 法人 ムワンガザ・ファンデーションにおける、孤児支援・孤児院建設に関わる取り組みについては、当初、2年間の取り組みとしておりましたが、加盟組織の皆さんの積極的な取り組みにより、延長して向こう2年間の継続支援として取り組んでいきたいと考えています。後ほど、議案の中でも触れますので、ご承認をお願いしたいと思います。

また、現地孤児院建設の視察訪問を計画しておりましたが、今年の大会では諸般の事情から「延期」として提案させていただきました。今定期大会では、現地環境が改善しないこともあり、正式に、「中止」として議案提起させていただきました。現地の方々やムワンガザ・ファンデーションの代表を務める、小林フィデアさんからも要望がある中で、改善が進めば、視察の方向も視野に白紙の状態から一歩、踏み出すことも検討していきたいと考えています。

さて、今年の統一地方自治体選挙については、加盟組織の皆さんには大変にご尽力いただきました。特にそれぞれの地区協には大変なご支援をいただき、長野地協の組織内議員、2名を上位当選させることができました。

2月の須坂市議選では富士通労組 R&D 支部 長野分会の「宮坂成一」さんが三期連続でのトップ当選。4月の松本市議選でも富士電機労働組合 松本支部の「小林弘明」さんが第2位の成績での当選と、投票率が下がる中において得票率を伸ばしたことは意義ある選挙であったと評価しています。

改めて、加盟組織の組合員の皆さんはじめ、各地区協の取り組みに敬意を表したいと思います。

また、既に幹事会ではご承認いただいておりますが、後ほど、第4号議案でご提案させていただきます。来月9月の長野市議選には、長野日本無線出身の「松木茂盛」さんが13期目の挑戦をすることになっています。承認いただければ、ご本人には、決意含めてご挨拶いただきたいと思いますので、万雷の拍手でご承認いただけるようお願いいたします。

冒頭申し上げましたが、大会前段で、来年夏に施行予定の第24回参議院選挙「矢田わか子」さんの決起集会を開催しました。電機連合としては、何が何でも、矢田さんを国会に送ることが重要です。長野地協とすれば、今年一年、この取り組みが全てと言っても過言ではありません。

数字で振り返ってみますと、2010年の加藤さんの選挙では長野地協の得票数は2,548票、県内組織人員に占める得票率で17.42%でした。2013年の石上さんの選挙では、得票数は3,557票で得票率は27.48%です。10%ほど、前々回を上回りましたが、まだまだ、4人に1人しか投票に行っていない、もしくは、本人の名前を書いて投票していない、ということになります。長野地協として、前回の石上選挙の数字を下回ることは許されません。

先週、各組織を訪問させていただきましたし、各地区協では集会も開催していただきま

したが、私たち役員が周知しているだけで、まだまだ一般組合員の皆さんにまで「矢田わか子」さんの名前が浸透している実態にはないと思っています。個人的には、今回の選挙は非常に「危ない」と感じています。幸い、安倍首相の「戦後70年談話」の中身も然う斯うし、衆議院での安保法案の強行採決もあって、支持率が低下傾向にあるものと思っておりますが、敵失だけを望んではいけません。各組織が「当事者」として取り組んでいく必要がある訳で、残り一年、それぞれ加盟組織における周知活動や教宣活動に傾注し、「矢田わか子」の浸透に全力で取り組まなければなりません。更には、投票行動への積極果敢な取り組みが必要です。前段の決起集会でも申し上げましたが、「間延び」せず、継続した取り組みをお願いしておきます。

次に、電機産業の動向についてですが、この後、電機本部の半沢中執からも触れていただけるものと思っていますので、多くを申し上げるつもりはありませんが、長野県内、まだまだ総てが潤っている、業績が好調に推移・回復しているという実態にはありません。

長野地協加盟組織で言えば、信越富士通さんが解散し、長野ケンウッドさんや太陽誘電モバイルテクノロジーさんが県外移転を進めている実態にある中で、長野日電さんにおいても、県内撤退という状況下にあり、「事業の選択と集中」はより一層進んでいくものとみななければならないと思っています。

グローバル化の時代ですから、海外移転も県外移転も決して否定するものではありませんが、こういう時こそ労働組合の果たすべき役割は重要で、且つ、組合員の皆さんにとってみれば、雇用不安や将来不安、生活不安の解消への拠り所であればなりません。

常日頃からの労使協議会や懇談会での情報交換は基より、安心して働ける環境整備・条件整備には全力で取り組むことが求められます。

当該労組以外についても、会社側との活発な協議会の開催を望みたいと思います。

今期も、昨年に引き続き、地協組織・財政のあり方・方向性を示すべく、組織財政検討委員会を設置し、組織・財政全般についてより深掘した議論を行っていただきました。昨年、答申いただいた内容については、来期の予算にも反映していますが、組織全般については、更に具現化していくべく、来期も組織財政検討委員会を設置し、中・長期的視点にたった議論を行っていきたいと考えています。昨年における組織財政検討委員会の皆さんに感謝と敬意を表するとともに、向こう一年間におけるトータル2年間の組織財政検討委員会の皆さんにも、引き続きのご尽力をお願いしたいと思います。

時間の関係から、国政について、また、2015 春季交渉については割愛させていただきますが、新たな時代を迎えるべく、引き続き、運動の原点に立ち返り、電機産業に働く仲間が結集・連帯する運動体で在り続けるために長野地協として深化していく必要があると思います。

本定期大会、限られた時間ではありますが、大会代議員の皆さんの活発なご議論をお願い申し上げ、常任幹事会を代表してのご挨拶に代えさせていただきます。